

「（仮称）富山市こども計画（素案）」のパブリックコメントにおけるご意見と市の考え方

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。
今回いただいたご意見と市の考え方は、次のとおりです。

意見募集期間：令和6年12月13日から令和7年1月6日まで

意見数：10件

No.	ご意見	市の考え方
1	今回の提案 - 富山市の全ての小学校区で“命の安全教育”の一環としてCAPプログラムを活用する。 - 第3者の立場であるCAPが学校に入ること、”チーム学校”として、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと共に地域連携の形成を担うことができる。 - 教職員や保護者のCAPスペシャリスト養成講座への実施。 こどもの人権と暴力防止のワークショップ実施が地域の安全とこどもの将来をささえるCAPの教師や保護者のスペシャリスト(CAP養成講座修了者)を養成し教師チームで他校でのワークショップに参加できる可能性も生まれます。そのためのプランとしての養成講座の開催の提案をする。	こども計画では、基本理念の1つとして「すべての子ども・若者の生きる権利と豊かな育ちが尊重される環境づくり」を掲げ、基本目標Ⅱに「子ども・若者が権利の主体であることの共有」、基本目標Ⅲに「子どもが健やかに育つ環境づくり」を位置づけ、子ども・若者の権利についての理解啓発や不登校対策、いじめの解消などの各種施策を推進してまいりたいと考えております。 ご意見につきましては、今後の施策検討の参考にさせていただきます。
2	小学生から制服を着せたいです。富山市の小学校はなぜ制服を導入しないのですか。 制服のメリットは ・コストがかからない(最初だけ) ・冠婚葬祭で着用できる ・他の子と服装の格差がない ・まとまりがある などがあると思います。 小学校の卒業式の際、中学校の制服を着る風習があると聞き大変驚きました。そうであれば小学生から制服を着用するべきだと思います。 他の市では制服を導入していますが、富山市では制服を導入しない理由は何でしょうか。 是非とも小学生から制服の導入をよろしく願います。	文部科学省の生徒指導提要には、「校則は、各学校が教育基本法等に沿って教育目標を実現していく過程において、児童生徒の発達段階や学校、地域の状況、時代の変化等を踏まえて、最終的には校長により制定されるもの」と記載されており、制服につきましては、実用性や子どものニーズ、保護者の考え方や地域の状況等をふまえ、各学校で選定しております。 制服の着用を含む校則の見直しにつきましては、各学校において児童生徒が主体的に参画するとともに、コミュニティ・スクール等の機能も活かしながら、学校と保護者、地域等がそれぞれの学校の実情に即して見直しを図られるものと考えており、市として制服を一律に導入することは考えておりません。
3	案のP61にあります。「基本目標Ⅲ・子どもが健やかに育つ環境づくり」の施策4の記述に以下の内容を加えてください。 「スクールカウンセラー等を配置して教育相談体制の整備を図るとともに、特別支援教育の推進や医療的ケア児の受入体制の整備など、特別な支援を必要とする児童生徒への支援に努めます。また、<u>学校図書館などの学校施設の整備やICTを活用した教育環境の整備等を推進するとともに、<u>学校司書の配置を充実させ、教員の資質向上などに取り組みます</u></u>」	学校図書館については地域図書館を併設・併用している学校を含め、全校に整備済みです。また、学校司書については学校図書館の日常の運営・管理や、学校図書館を活用した教育活動の支援等を行うことを目的とし全校に配置しています。教育活動の支援については、12学級以上の学校に配置が義務付けられている司書教諭や教員等と連携しながら、学校図書館活動の充実に充分に寄与していただいており、配置については充たしていると考えております。
4	学生が学校以外で勉強するスペースが少ないというアンケート結果について、対策を講じてほしいです。塾に通えない子どもたちの拠り所になると考えます。	本市には、図書館本館や呉羽ミニ児童館、その他公共施設内のパブリックスペースなどに、学生が勉強できるスペースがあります。 学習スペースを含め、子どもが安全に安心して過ごせる居場所を持つことは、幸せな生活を送る上で重要なことと考えており、ご意見につきましては、今後の施策検討の参考にさせていただきます。
5	多子世帯への支援・補助を見直し、第一子からそれらを受けることが出来る仕組みに変更した方が、若年層を誘致できると考えます。なぜ、第三子から手厚い補助を受けることができる仕組みになっているのでしょうか。	本市では、妊娠届出時と出産後の保健師等との面談後に、出産・育児用品の購入などに活用いただくための給付金を支給しております。また、児童を養育している方に支給する児童手当について、令和6年10月から、支給対象を中学生までから高校生年代までに拡大するなど、子育て支援の充実に取り組んでおります。 このほか、多子世帯の経済的負担を軽減するため、第3子以降の児童手当の増額や保育料無償化などの経済的支援にも取り組んでおります。 ご意見につきましては、今後の施策検討の参考にさせていただきます。

No.	ご意見	市の考え方
6	子どもたちが、『本物』に触れる機会を設けてほしいです。地域人材や、富山市出身の第一線で活躍されている様々な業界の方を招いて交流し、自分の目で本物を見ることが重要だと考えます。	本市では、全ての小学6年生を対象に、劇団四季の公演を鑑賞する「こころの劇場」を実施するなど、小中学校において、音楽や演劇等のプロの演技に触れる機会をつくっているほか、中学校において、各分野でご活躍されている方による「先輩に学ぶ講演会」を実施しております。また、桐朋学園が行う市内中学生を対象とした桐朋アカデミー・オーケストラ演奏会や無料演奏クリニックの取組を支援するなど、子どもたちの感性を育む機会の創出に取り組んでいるところであります。 ご意見を踏まえ、計画P61、「体験の場づくり」の「概要」及び「担当」に次のとおり追記します。（下線部分） 「概要」 <u>小中学校において、音楽や演劇等に触れる機会をつくるなど、体験活動の充実に取り組みます。また、学校の放課後や休業日にスポーツや文化活動等の様々な体験・交流活動を実施する「子どもかがやき教室」（放課後子ども教室）を開設するとともに、様々な体験活動等を行う児童クラブや青少年団等を支援します。そのほか、多様な体験機会の創出に努めます。</u> 「担当」 <u>学校教育課 生涯学習課 こども支援課 関係各課</u>
7	「（仮称）富山市こども計画」のタイトルを見ただけでは、どのような計画なのか、わかりません。サブタイトルをつけるとか、工夫されたら良いのではないのでしょうか。	ご意見を踏まえ、計画の内容がよりわかりやすくなるよう、表紙の計画名の下に「子ども・若者施策と子育て施策についての計画」と追記します。
8	・内容について 現状分析がされ、実際に子どもたちの意見も掲載されているのは良いと思います。 ただ、富山市は市町村合併が進んでおり、地域ごとで問題・課題が異なるところもあるのではないのでしょうか。	令和5年度に、市立の小学5年生、中学2年生とその保護者を対象に実施した「富山市こどもの生活実態調査」や、市内3会場で実施した「富山市子ども・若者へのアンケート調査」において、子どもや若者の意見を広く聴き、こども計画にも反映しました。今後も、継続的に子ども・若者の意見を聴きながら、計画を推進してまいりたいと考えております。 また、計画P77からの第5章「子ども・子育て支援事業の円滑な実施」では、市域全体を12区域（中央、北部、和合、呉羽、西部、南部、東部、水橋、大沢野・細入、大山、八尾・山田、婦中）に分け、教育・保育事業や放課後児童健全育成事業等のニーズ量とその確保策について、区域ごとに記載しております。

No.	ご意見	市の考え方
9	不登校という言葉は、違う言葉にかえてほしいです。 学校のまなびについて、おとなだけで決めず、子どもと一緒に決めてほしいです。 子どもに話を聞くだけでなく、取り入れてください。 図書館も児童館も、注意されること、禁止されることが多い。学校は?と聞かれることも多くて、平日は特に行きづらくなりました。石川図書館は気持ちいいイスもあって過ごしやすかったし、3Dプリンターもあって楽しいです。 かがしに行きましたが、児童館でも学校に行ったことになります。支援センターは、工作の機会があったり、音楽ができたり、ハンモックもあって楽しそうでした。 かわさき夢パークみたいなところができたらうれしいです。 多様な学び学校ができると聞きました。おとなだけで決めないでください。学校に行けていないわたしたちに、どんな場所だといいか聞いてください、話し合いにいらしてください。 子どもも、学校に行けていない子も面白いアイデアを持っています。 学校に行けていない子はどこで過ごせるのか、わかるようにおしえてください。 おとなも子どもも先生も、行けていない子のことを知って、みとめてください。 他の場所のいいところを取り入れてください。 おとなのよかれは、子どものめいわくになります。 子どものことは、子どもにも聞いてください。 おとなも仕事ばかりせず、楽しくいてください。 いじめで無理やり仲直りさせられるのはいやです。どうしたいか、話をきいてからにしてください。おとなだけで、解決しないでください。すぐに守ってください。	言葉は、人によって受け取り方が違うため、表現の仕方についてはいろいろなご意見があるかと思いますが、この計画を市民の皆さんにとってわかりやすいものとするため、国で使われている表現を使用したいと考えていますので、ご理解をお願いします。 どのような場所を「居場所」と感じるかどうかについても、人によって違います。また、子どもや若者が発言したいこと、伝えたいこともたくさんあると思います。 今回の計画をつくるにあたっては、子ども・若者へのアンケートを行い、できるだけ計画に反映するようにしました。 これからも子ども・若者の声を聴くいろいろな機会をつくり、そこでいただいた意見を市の取組に取り入れていけるよう工夫していきたいと考えております。
10	本当は給食が食べたいけど、学校に行けていないので食べられません。休みの日の子ども食堂も学校に行っている子ばかりで、こわくて行けません。 学校に行けていない子にも、おいしいご飯や行事メニューをどこかで出してください。もしくは、集まって自分達で作れる場所がほしいです。 八王子は、給食センターで食べられます。	給食をととても楽しみにしているお気持ちはよくわかります。 学校給食は、教室やランチルームで食べることとされていますが、それぞれの学校で相談があれば、教室以外の部屋で食べるなどの対応をしています。 ご意見につきましては、今後の取組の参考にさせていただきます。